



にし の ゆか さばらぼ
西野 有香〔SABA LABO〕



「ケアラーリフレッシュ支援制度」導入提案

問 介護代行ではなく、介護者自身の心身の回復を目的とする新たな支援策を提案する。温泉・美容院クーポンや地域ボランティアによる一人時間の確保を想定。「美容院にも行けない」「少しでもいいから一人になりたい」など介護保険だけでは補えない負担や罪悪感を抱える家族も少なくない。介護者が疲弊する前に必要な支援として導入検討を。

答 心身の負担軽減、リフレッシュは介護継続の上で非常に重要と認識している。今年度、在宅介護実態調査を実施予定。介護者のニーズを踏まえて検討する。



だいもん よしかす せいせいかい
大門 嘉和〔清鯖会〕



中学校・小学校体育館への空調設備導入について

問 中学校体育館空調設備の使用電力量と費用の概算は。

答 夏場の3か月間、冬場の2か月間で1日7時間運転と想定した場合、3校で年間の電気使用量はおおむね9万キロワット。電気料金は800万円程度と試算している。また、断熱確保の工事費は、事前調査段階で2校（鯖江中学校は現在改修工事中のため除く）計4,000万円余り、空調設備導入の経費は2校で1億1,800万円余りと試算している。

「仕事と介護の両立支援窓口」設置提案

問 今後ますます現役の働き世代が介護の担い手となるダブルケアラーやヤングケアラーの課題拡大が予想される。社会保険労務士や産業ケアマネジャーと連携し、柔軟な勤務制度や介護休業制度活用の個別支援、市内企業への両立支援アドバイザー派遣やセミナー実施など、企業内の支援体制づくりを促すことは、介護離職を防ぎ、地域の担い手も守ることにつながり、企業と市民の両方に有益である。専門職や企業との連携を視野に、仕事と介護の両立支援相談窓口を整備しては。

答 地域包括支援センターへの早期相談や介護サービスの利用促進を図るとともに、福井労働局や鯖江商工会議所と連携し、市福祉総合相談窓口においての適切な関係機関へのつながりができる相談体制を整備する。

問 小学校体育館空調設備導入の課題は。

答 空調設備の設置、断熱材の施工など、多額の初期投資が必要となる。また、稼働に伴う電気代や維持管理費、後付け工事の電源や配管の整備、工事期間中の学校行事や授業への影響などが想定される。しかし、小学校体育館への空調設備の導入は、教育環境の改善や、大規模災害時の避難所としての活用、また、市民の社会体育施設としての利用等、幅広い分野での活用が見込まれるので、国の有利な財源を活用しながら、中学校体育館への導入に引き続き、小学校体育館への導入を計画的に進めていきたいと考えている。



子どもに快適な運動環境を



きむら あいこ しみんそうせいかい
木村 愛子〔市民創世会〕



「食」について

問 備蓄米が市場に出ると農家への影響は。

答 現時点では市場全体の価格を大きく押し下げるほどの影響は出ていない。令和7年産の内金単価を引き上げる動きもあり、農家の販売価格が大幅に下落する懸念は、今のところ限定的と考えられる。

問 野菜等の食料自給率の向上や地域経済の活性化には、直売所の充実やPR等の支援が必要では。

答 園芸作物の振興を目的に、令和6年度に産直・6次産業化施設整備支援事業補助金を新設した。直売所のPR、園芸農家の掘り起こし、地産地消の促進、規格外野菜の有効活用等で農業収益の安定化を図る目的で、市ホームページ、フリー

ペーパー等情報発信に努めており、今後も地場産農作物の販路拡大と地域農業の活性化に向けて、関係機関と連携して取り組む。

問 農村の活力のため、集合菜園等に力を入れては。

答 健康志向の高まり、昨今の物価高の影響から、自分で育てる食への関心が高まっている。こうした流れを生かし、市民の農への参加を後押ししたい。

問 食のある居場所づくりについて。

答 地域こどもの生活支援強化事業補助金を創設し、孤立を防ぎ、地域でのつながりを強化するとともに、食事の提供と多様な体験の機会を通じて、子どもが安心して気軽に立ち寄れる居場所の整備を進める。



食のある居場所の体験

要望 高齢者の独り暮らしの方や大人も楽しい食のある居場所づくりに事業の枠を広げてほしい。